

# 未来につなごう！荒田池スペシャル

## ～ふくよかに たくましく なんでもチャレンジ～

### プロジェクトの概要

本校は、これまでも地域教育ボランティアの協力を得て、隣接する「荒田池」を、子どもたちの学習環境として活用し、大きな学習効果を得てきている。さらに、地域とともに地域から接続可能な社会作りの担い手を育む教育（E S D）を推進し、子どもたちに地域への愛着や感謝の気持ちを育みたいと考えた。

荒田池は、開校当時から学校の要望を取り入れながら、ボランティアの人々が改良を加えてきた。体験活動ができる田んぼ作り、生き物とふれあえるヤギ・アイガモの飼育管理、ボート遊びや魚釣りができる池、水遊びができる川の整備、果樹園の剪定、子どもが集えるベンチなど、安全・安心を考えながらの改革である。今後は、地域の要望もあり、子どもたちが土日にも遊べる場所にしていきたいとも考えている。

「持続発展教育」（E S D）の推進に結びつけていくために、全職員で共通理解を図り、教育課程に位置づける。どの学年も生活科・総合的な学習の時間を中心に意識的に「荒田池の学習活動」を取り入れるようにしたい。また、児童会活動やクラブ活動にも取り入れ、これらの活動を校区へも情報発信する。校区内のオアシスとしていつまでも「荒田池」が子どもたちの心に残り、ひいては、大人になっても地域を愛するための原風景となるよう、このプロジェクトを進めたい。

### プロジェクトの目的

本校では、E S Dに「生きる」という観点から取り組む。自分たちが住むまちの生活や人のつながりについて学習を深め、接続可能な社会作りの担い手を育みたい。

二川南小学校においては、本プロジェクトを通して、地域とつながり、食や生き物の生態を考え、環境を見つめていく。自然とのふれあいは、人格の発達や自律心、判断力、責任感などの人間性を育み、食や生態系を学ぶことは、他人、社会、自然環境との関係性を認識し、関わりやつながりを意識できる個人を育む。そのために本校では、以下の四つの活動で、学年ごと次の様な目標を掲げる。

#### （1） 生きるために「作る」活動

- ・ 田んぼでの稲作り  
5年生の総合的な学習の時間を活用して、1年間、米作りを学ぶ。  
ボランティアの米作り名人の、時期を逃さず、稲の生長を見て来校しては、田んぼの世話、稲の様子などを補助してくれる真摯な取り組みの様子も学ぶことで米作りへの愛情をとらえる。また、感謝する会を催し、自分たちが作った米を自分たちで炊く。田んぼの世話をしてくれたボランティアを招いて食の交流をし、物作りの大変さ、食のありがたさを感じさせたい。
- ・ 畑でのやさい作り  
2年生の生活科の「一人一鉢栽培」を成功させるために、地域の野菜づくり名人に学ぶ会をもつ。そして、子どもたちの、自分の野菜がうまく育つにはどうしたらよいかという問題解決学習を進める。また、野菜づくり名人が催してくれる、畑で採れたすいかを食べる会を通して、プロの作った野菜のおいしさを体感し、畑や世話の大切さに気づかせる。

#### （2） いろいろな生き方を「見る」活動

- ・ ヤギ・アイガモ  
1年生は図工でヤギ・アイガモと遊ぶ機会を作り、絵を描く活動につなげる。ヤギやアイガモを身

近で観察したり、えさをやったりする活動をとおして生き物のぬくもりや大きさにおいなどをじかに感じる体験をさせる。

### (3) 生きることが「つながる」活動

- ・ わらぞうり作り  
4年生は、総合的な学習の時間と社会科の時間で「昔の道具」について学ぶ。その一環として、地域の「わらぞうり作り名人」からわらぞうりの作り方を学び、自分で作る活動をする。わらには、荒田池で作った稲のわらも使っていることを知らせ、昔の人々の、物を大切に作る姿も感じ取らせていく。
- ・ もちつき  
全校で「もちつき」を体験し、もちを食べる会を持つ。1年計画で、地域教育ボランティアの方が、4月に「ヨモギ取り」「ヨモギ蒸し」「冷凍保存」しておいたものを、1月の新年を迎える会で、もちに混ぜてよもぎもちをこしらえる。地域の人々の愛情や、おいしい物をいただくことの喜びを感じさせるとともに、一つの物ができあがるまでの、時間の長さや、人の手の多さを知らせる。

### (4) 生きているを「知る」活動

- ・ プランクトン  
荒田池にはいろいろな魚が棲んでいる。5年生の理科やクラブ活動の一つである「荒田池クラブ」では、その魚のえさとなっているプランクトンを観察することで、目に見えない小さな生き物がいることや、いろいろな物が生きていることを学ばせる。
- ・ レンコン  
3年生は、レンコンを使って、図工のデザイン画を作成する活動を行う。ボランティアの方が、植えたレンコンが池の縁でとても大きく成長している。きれいな花も咲く。それらを通年観察することで、見えない所でも生きるための営みが脈々と行われていることを学ばせる。また、ハスに関連づけて「蜘蛛の糸」を読み聞かせ、人としての生き方を考えさせていく。
- ・ 果樹園  
6年生が、主となり、ボランティアと一緒に果樹園の草刈りや整備を行う。木の種類や、木の様子を観察や、1年に一度の収穫から、働くことの厳しさと喜びを体験させる。

### プロジェクトの実施

本小学校では、ESDの目的を「生きる」の観点から、自分たちが住む町の自然や産業、その中で培われた文化や人とのつながりについての学習を深める。それぞれの活動を、郷土愛にあふれた持続可能な社会作りの担い手を育むための資質や能力の基礎的な部分を育てる教育であると位置づけている。

二川南小学校は、26年前に現二川小学校から分離して開校した。学校としての歴史はまだ浅いが、校区にあたる地域の方々の学校を思う気持ちと、隣接した「荒田池」を子どもたちの学習に生かしたいという熱い思いは、開校以来変わることなく続いている。特に「荒田池」は、地域ボランティア活動が活発で、子どもたちのより良い学習環境とするために、日々改良が進められている。その愛情を受けて、荒田池で子どもたちは「生きる」ことを学ぶことができれば、自然への畏敬の念、食への感謝、他人との関わりかたや思いやりを理解し、協調し共生しようとする子どもを育てることができると考えた。

各学年で目標を達成するために、総合的な学習の時間や生活科等で活動を進めていく。そのための実践計画として、ESDカレンダーを作成して実践を行う。

ふたなん ESD カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	ヤギ・アイガモと遊ぼう 絵を描こう		サツマイモ作り		収穫祭							
2年	一人一鉢野菜作り 名人に学ぼう			秋野菜作り			収穫祭		もちつきを知る会			
3年	ハスの花を描こう			レンコンはんこを作ろう			年賀状を出そう		地域の人やボランティアの方々に感謝する会			
4年	ウサギの世話をしよう		ウサギとふれあおう		昔のくらしを知ろう		わらぼうりづくり					
5年	もりもりこ田んぼ 稲作り			お米マスターから学ぼう			収穫祭		感謝の会			
6年	水の中の生き物を見よう			果樹園でいろいろな果物を育てよう			いろいろな果物を収穫しよう					
ふたば	いろいろな生き物となかよしになろう			サツマイモ作り			収穫祭					
荒田池クラブ	魚釣りをしよう ポートで遊ぼう		いろいろな野菜を育てて食べてみよう			プランクトンを見つけよう 住みやすい池にしよう						

(1) 生きるために「作る」



(2) いろいろな生き方を「見る」



### (3) 生きることが「つながる」



### (4) 生きているを「知る」



#### 使用する教材

- ・ 「小学校 キャリア教育の手引き」文部科学省 2010
- ・ 「豊橋市教育振興基本計画」豊橋市教育委員会 2011
- ・ 「夢を見つけ夢をかなえる航海ノート」愛知県教育委員会 2012
- ・ 社会科副読本「ふたなん」二川南小学校 2003

#### プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法

児童の理解と姿勢の評価は、以下のように行う。

- ・ 児童の様々な活動への取り組みの成果を事後のまとめや感想、発表から把握する。
- ・ 学習や活動のまとめとしての授業参観や作品展示会、行事等での成果の発表、意欲や態度を観察し評価する。

上記の評価とともに、さらに下記のことを実施して、ESD活動のさらなる充実を図る。

- ・ 行事後の「アンケート」や10月の「学校評価アンケート」により、「地域学習の有効性」「地域への誇りと愛着についての意識変化」等の項目について尋ねるアンケートを保護者、児童、教職員を対象に実施する。また、その結果を学校評議員に伝え、アドバイスをいただく機会を設ける。
- ・ 児童の実態や地域の特色に沿ったカリキュラムになるように、今年度の実践を基にESDカレンダーを見直し、地域学習に関する具体的な活動内容の改善を図る。

本校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要に沿ってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年APSコーディネーター（※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会）に活動レポートを提出します。

2013/8/1

校長、豊橋市立二川南小学校